

令和2年度 東京都地域活動に関する検討会（第1回）

事前アンケート概要

<災害（コロナ）編>

東京都生活文化局

令和2年9月

今回のコロナ禍を通じて、町会・自治会が課題と感じている事項は主に8項目あった。以下に課題と、それらの課題に関連する対策例を紹介する。

課題（1）活動を行うための感染症対策の確保・実践、3密対策

➤対策例

◇イベントや会議での対策

- ・出席前に、健康状態の確認・検温を実施、体調不良者には参加の自粛をお願い。
- ・参加者名簿を作成・保管
- ・イベントを申込み制とし、事前に出欠を取ることで、参加者を特定できるようにした。
- ・入場の際の検温及び手指消毒、会議中のマイク消毒を徹底して行った。
- ・ある町会の会議では人と人の間にアクリル板パーテーションを設置した。
- ・マスクを忘れた出席者には常備マスクを配布した。
- ・フェイスシールドを机上配布し、定例会中は着用した。
- ・使用後はデスク、椅子の消毒を行う。
- ・こまめに換気
- ・ラジオ体操会の実施にあたり、非接触体温計やアルコール除菌液、予備のマスクの用意や、参加者の住所・氏名の把握をした。そのほか、熱中症対策にミスト設置と凍らせたペットボトルを用意。

◇ガイドラインの作成

- ・自治会連合会にて地域活動を行ううえで感染症の拡大防止に向けたガイドライン「地域活動における感染拡大予防ガイドライン」を作成した。
- ・「自治会の活動再開にむけて」というガイドラインを作成し、各自治会長に配付した。

課題（2）会場の確保が難しい

➤対策例

- ・市内全体の自治会長を集める研修会は午前/午後に分けて実施を計画している。
- ・町内会・自治会全体会を2回開催することで参加人数を半数にし、3密を避け、ソーシャルディスタンスを確保する策を講じた。

課題（3）コミュニケーションの不足

▶ 対策例

- ・ 連絡網を整備し、役員間の連絡はLINE等SNSやメールで行った。
- ・ 自治会連合会の運営について、メール、ホームページを使い情報を共有する取組みをした。
- ・ 町会連合会の役員および事務局でLINEグループを作成し、集まることが難しい場合は、時間を決めてLINEグループ通話で会議を開催した。
- ・ 役員への連絡や意見交換のツールとしてメールを活用している。
- ・ 電話による安否確認を行っている。
- ・ 町会内の80歳以上の方に“困り事はありませんか？元気に過ごしていますか？”という内容の葉書を送付。

参考事業例

☆「まちの笑顔」プロジェクト（中央）

- ▶ 「中央区「まちの笑顔」プロジェクト」として募集した歌唱や笑顔の画像をまとめた映像をYouTubeに公開。117名の住民が参加した。

☆町内会の出前を行っている飲食店マップの作成（中央）

- 併せて飲食店マップ作成方法の講習会をYouTubeにアップした。

☆まちかどギャラリー・お絵描きコンテストの実施（中央）

- ▶ 町会内の店舗で作品を展示、お気に入りの作品への投票・応援コメントの募集、駅地下通路ギャラリーにて表彰展示を行った。

☆プチ・フードパントリーの実施

- ▶ 休校中の登校日に社協、CS、学校支援本部と共働で近隣小中学校の全児童生徒にお菓子を配布した。（杉並）

☆定額給付金申請の高齢者サポート

- ▶ 記入や添付書類のコピーの支援や助言を行った。（杉並）

課題（４）回覧板やチラシ類の受け取りに対する拒否

対策例

- ・回覧板での周知を控え、**掲示板での周知**を主として行っている。
- ・緊急事態宣言発令下では、戸別配布・回覧を一時中止した。（町会会館に設置し、各自持ち帰り）
- ・回覧板を中止し、**ポスティング**で周知した。
- ・新たに「町会だより」を作成し、希望する世帯にメールでの**配信**を始めた。
- ・町会費の集金方法を**郵便振替**にした。

参考事業例

☆中野 Lovers ウォーク 2020

➤町会掲示板を活用したウォークラリー、フォトコンテストの開催を予定している。

課題（５）LINE や Zoom など、関係者がオンラインで意見交換、連絡を取り合うことができる環境づくり 高齢の役員でもオンライン会議等に参加できるような支援を検討していく必要

対策例

- ・一部には、オンラインによる総会、ZOOM を取り入れた会議の導入等を取り入れた。
- ・可能な方についてはリモートで、オンライン環境を持たない方については対面での対応とし、リモートと対面とを**併用**し会議を開催している。

課題（６）感染症対策に必要な消毒液等の確保

課題（７）町会によっては今年度の町会の会費を集金しないとか半額にするなどの話が持ち上がっている

課題（８）防災に関心のある世帯と関心のない世帯に差異があり、連携に不安がある。社会福祉協議会との連携が不十分

参考事業例

☆防災ゲーム（クロスロード）の開催（中野）

- 11月に、区の危機管理課（防災担当）の協力のもと、洪水ハザードマップを活用したコロナ禍の避難所運営方法の周知を目的に地区別に開催を予定している。

☆新型コロナウイルス感染症に伴う避難所運営シミュレーションの実施（八王子）

- 昨年10月、台風19号による被害を受け、避難所開設・運営した浅川地区において、コロナ禍で危惧される避難所運営について、八王子市、社協、地区の各種団体の協力を得て、地区連合会によるシミュレーション実施、受付位置、体調確認、収容人員の制限、パーテーション配置などが課題となった。